

F-33 女子青年の人格形成に及ぼす影響について(第5報)
帯広大谷高 山田昌子

目的 女子青年の日常生活に於ての親子のふれ合いと具体的に補え、その中に生じている親子間の諸問題とあげてみる。また問題の生じた女子青年のたちなありを試みることにより、親子の認知の一致を計る上の根本条件となるものについて考えてみる。

方法 (1). 通信ノート、調査質問紙などで親子間に生じている問題とよべる。(2). ア. 問題の生じた子(両親の揃っている子の場合、両親のいづれか片方または両方いない子の場合)につぎの点とよべる。①家族構成、②問題の生じた時期と成績、出席状況との関連について、③(1)の質問紙にはどのように答えているか、イ. 問題の生じない子(両親の揃っている子の場合、両親のいづれか片方または両方いない子の場合)についても上記の①②③についてよべる。(3). 問題の生じた子についてつぎの点を検討する。○非行の内容と原因、○たちなありのきっかけ

結果 非行の原因は主に親子のふれ合いが少ない、親子相互の疎通がないなどでその結果、怠学、異性問題、家出などに発展している。またたちなありのきっかけは、親子の相互理解であり、これは親子の認知差を小にするための根本条件の一つであることを知った。そのためには相手の立場を理解して話し合いとする努力が極めて必要であることがわかった。